



ふれあい通信

第204回史跡ウオーク

出水七不思議と北野七保を訪ねる

チーム雅

今回の史跡ウオークでは、出水七不思議と北野七保を訪ねます。

前半は出水七不思議を訪ねます。出水通の周辺地域にはかつて五番町遊郭があり、小さな寺院が密集していました。かつての平安京大内裏に隣接していたこの地域も次第に寂れ、幕末から明治時代にかけては、寺院、竹藪と果樹園くらいしかありませんでした。そのため、夜はとても寂しい場所です、これらの寺院に伝わる不思議な現象や伝説が、時代とともに「出水の七不思議」として知られるようになりました。

後半は北野七保を訪ねます。

北野七保とは菅原道真に仕え大宰府に付き従った人々が創建した京都最初の天満宮である安楽寺天満宮（一之保）を守る七つの御供所です。神仏習合思想によってそれぞれの保に神宮寺が建てられましたが、御供所は次々廃絶していき、一之保のみが残りました。それも、明治の廃仏毀釈に伴い北野社境内に移され、旧蹟には再分祠された天満宮と小祠が残されています。

いずれも隠れた史跡ながら、知るほど京都の歴史の奥深さを感じられます。皆様のご参加をお待ちしています。

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



実施日 5月18日（日）

受付時間 午前9時～9時30分

所要時間 3時間程度

受付場所 内野公園（千本丸太町交差点北西、りそな銀行を北へすぐ）

コース 福勝寺（ひょうたん寺）→玉蔵院（幽霊の掛け軸）→華光寺（時雨松、五色椿）→指差…光清寺（浮かれ猫の絵馬）→五劫院（くぐり戸の寝釈迦）→観音寺（百叩きの門）→極楽寺（三つ門、金谷水）→大雄寺→指差…地福寺（日限地藏）→京都アスニー（休憩…WC）→阿弥陀寺六之保跡→華開院→五之保（玉房稲荷）→だるま寺→北野天満宮御旅所→四之保（威徳水）→文子天満宮跡→西ノ京瑞饌神興保存会→一之保（安楽寺天満宮）→奥溪家→指差…妖怪ストリート→大將軍八神社→三之保（成願寺）→北野天満宮境内（一之保神社・野見宿禰神社・文子天満宮（解散）

※チーム雅の会員は午前8時に、他チームの会員は午前8時30分に集合してください。

北野祭とずいき祭

チーム雅 秋房 麻理

かつて北野天満宮では勅祭の北野祭が行われ、数か月間さまざまな神賑行事が斎行されて、神輿渡御は荘厳で見物人が絶えなかった

といいますが、応仁の乱で途絶えてしまいました。現在、北野天満宮の秋のお祭りといえど、ずいき祭が有名ですが、これは七保を守ってきた西京の神人たちが五穀豊穡に感謝して菅公の神前に新穀蔬菜や草花を供えたところから発展させてきたお祭りです、ずいき神輿の巡行に往時の北野祭の神輿列の光景を垣間見ることが出来ます。その北野祭は令和九年の「菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭」での再興が目指されています。

二〇二四年のずいき神輿





時代劇の撮影場所はどこ？

チーム葵 三宅 幸男

昨今、映画やドラマの撮影場所（ロケ地）を巡ることを「聖地巡礼」というようです。老若男女問わず、ブームになっているようです。今日では、インターネットやSNSの普及によって、撮影場所がすぐに判明してしまい、あつという間に拡散して人や車がどっと押し寄せて問題になるという弊害も生じています。

昭和から平成にかけて数多く作られた時代劇は、今ではめっきり少なくなりました。現在、作られている時代劇は、その多くが撮影所内のセットで撮られ、街並みや背景は最新技術のVFXを使ったもののようにです。しかしながら、BS放送では毎日のように過去の作品が再放送され、有料放送では時代劇専門チャンネルまであつて、まだまだ根強いファンが多くおられるようです。

時代劇といえば、江戸時代を舞台にしたものが圧倒的に多く、また馴染みがあるように思えます。そこで、京都はロケ地としてはもってこいの場所でした。神社仏閣が多くあり、高い建物もありなく、少し郊外へ行けば自然豊かな場所がある、江戸を再現するにはこの上もないロケ地でした。

そこでまず思い浮かんだのは、「大覚寺」でした。作品の最後に「協力…国宝 大覚寺」と表示されることがよくあり、お寺そのものが撮影所といっても過言ではありません。御堂の外観は武家屋敷、三角屋根の低い天井の細い廊下は大名・旗本・大商人の住まい、参拝口から見える玄関は旗本屋敷そのものです。西側にある明智光秀が築城した龜山城から移

築したといわれる明智門は、奉行所の門や大名の江戸屋敷として使われています。外濠は『必殺』シリーズでよく使われ、大沢池は江戸大川の川べりとして、その北側に建つ心経宝塔の前にある広場は、縁日や立ち廻りのシーンによく使われています。

ほかにも、「妙心寺」の境内は武家屋敷の家並み、下賀茂神社の森に中の参道は馬場として、「上賀茂神社」のならの小川は町はずれの疎水としてよく見受けられます。『鬼平犯科帳』のエンディングでみられる桜満開の中に立つ「仁和寺」五重塔、夏の縁日の「今宮神社」東門の参道、真っ赤に染まった紅葉の中の「東福寺」通天橋など数え切れません。

まだまだ、気づいていない撮影場所があるかと思いますが、史跡を巡るとき、もう一つの楽しみ方としてこれからもひっそりと訪れてみたいものです。



上賀茂神社ならの小川

『驚き、桃の木、明治の記』

④勝海舟（中編①）チーム葵 今川 博明

勝海舟と福沢諭吉は仲が悪く、特に諭吉は海舟から慶應義塾の支援協力を断れてから海舟を批判し続けます。

諭吉は「瘦我慢の説（やせがまんの説）」を出版し、徳川幕府に仕えた身でありながら、明治政府でも立身出世を果たし政府高官として過ごしている海舟と榎本武揚を大いに批判したので。

諭吉が二人に、この本の感想を求めると、海舟は「行蔵（出处進退）は我に存す、毀誉（きよ）は他人の主張」と返答しました。いわゆる「行いは己のもの。批判は他人のもの。知ったことではない」と返したのです。海舟は、他にも名言も残しています。

「人はどんなものでも決して捨てるべきものではない、いかに役に立たぬといっても、必ず何か一得はあるものだ」

「人には余裕というものが無くては、とても大事はできないよ」

「人間、数ある中には、天の教えを受ける勘を備えている者がある」

「大事をなすには、寿命が長くなくてはいけないよ」

「世の中に、無神経ほど強いものはない」「敵は多ければ多いほど、面白い」

「時勢の代わりというものは妙なもので、人物の値打ちががらりと違ってくるよ」

また、人から揮毫を頼まれると「美意延年」という言葉を好んで書いたそうです。

意は「こころ」を意味し、心を楽しませて、つまらないにくよくよししなければ、自然と長寿を保つことができる。ということを表した四字熟語だそうです。

京都の地味な話

盗まれた鐘 チーム彩 奥西 不二

「盗まれた鐘」で有名なのは洛北の妙満寺にある道成寺の鐘です。安珍・清姫伝説でよく知られた鐘ですが、この鐘は戦国時代、秀吉の紀州攻めの時に仙石権兵衛が持ち帰り妙満寺に納めたそうです。その時の妙満寺は京都市役所の北側にあったのですが。

六月のウォークで巡ります長岡の勝龍寺の鐘も大坂夏の陣のうちに盗まれました。その後転々として現在は大阪府豊能町の真如寺に現存しています。勝龍寺の二代目の鐘ですが江戸時代に铸造されましたが戦時中に供出されたので、戦後になって真如寺へ返還の要求をしたのですが、返してくれないので三代目の鐘を铸造したものが現在の鐘です。ちなみに道成寺も妙満寺に返還してくれと言っていたこともあったそうですが、現在は和解されているようです。

盗まれたどうかは解らないのですが本禅寺の鐘です。本禅寺は寺町通り清浄華院の北側にある法華のお寺です。鐘は豊臣秀頼が铸造し、生国魂神社に隣接する法案寺に奉納したものであり、徳川家康が大坂の陣で陣鐘として用いたものとして伝えられています。後に大久保忠教（彦左衛門）が本禅寺に奉納したとされています。戦乱のどさくさに紛れて持ち帰ったのでしょうか。だとしたらこの鐘は方広寺の鐘より古いものかもしれません。とにかく最大の鐘盗人は戦時中に供出の名のもとに盗んでいった日本政府かもしれません。



道成寺の鐘



勝龍寺の鐘

信楽の狸

チーム葵 澤田 卓

信楽へ行くときまず狸の焼物が迎えてくれる。大から小迄まず置いていない陶器屋さんはないだろうし、飲食店も狸絡みの置物や狸に絡んだ洒落っ気のある店名も見受けられる。

中に一際目につく信楽駅前にある公衆電話を兼ねた狸像がある。季節ごとに彼は衣装替えをして、旅行者の記念撮影意欲を誘発するのです。

この春には頭から桜らしきを纏った衣装



であった。季節や催しにより浴衣、鬼、福の神やサンタクロースになったりと、梯子を使って着せ替えに数人の作業人が当たる。また、観光地でもあり、とある新聞社が取材をしていたこともあった。観光地の特性で、メディアに取り上げられてこそ、目的達成であろう。勿論京都と同様でしょうが。

こうして信楽はかなり辺境にも関わらず、近江商人らしく次々と妙手を出し続けるのでしようね。他にもNHKの朝ドラ「スカーレット」の聖地や狛犬や灯籠まで陶器でできた「陶器神社」など、多くの見所もありました。

まけきらい稲荷

チーム都 今井 満

丹波篠山市に「まけきらい稲荷」と云う変わった名がつけられた稲荷がある。正式には王地山まけきらい稲荷神社という。江戸時代藩主の青山忠裕公は、將軍御上覧の大相撲があつたが、自藩の力士は負け続けているのを悔しがっていた。

ある時、国元から王地山平左衛門など10名の力士がやってきた。体型を見ると、今年も勝てそうにないと諦めていたが、大相撲が始まると平左衛門など勝ち進み、ついに優勝した。大喜びの藩主は力士たちを労おうとしたが、いつのまにか誰もいない、国元に問い合わせると、今年は力士を送り出していないと云う。

ただ力士名を聞いた藩士が、平左衛門は王地山の稲荷の名と気が付いた。それからこの稲荷は「まけきらい稲荷」と呼ばれる。



第203回史跡ガイドウォークを終えて

『御池通・二条通沿いの史跡を歩く』

チーム華 渡邊 俊

京都史跡ガイドボランティア協会に入会して最初の担当を受け持ち不安が先行していましたが、2回の下見と諸先輩方の助言でどうか責務を果たすことが出来ました。隠れた史跡の多さと、参加者の熱情に驚嘆。歴史を学ぶ事は、過去と未来を繋ぐ架け橋であり、価値ある学びの源と言えましょう。隊列もさして乱れず順調に推移し無事故で終了した事に感謝です。参加者との会話も弾み、当会の理解に繋がる事を願うばかりです。最終地点での反省・評価も概ね好評でしたので、今後に生かしていきたいと思えます。



面白発見

三浦春馬と配電盤

チーム都 今井 満

ひとまち交流館から少し下った処に開化堂カフェがある。ガラス窓越しに多くの茶筒が並べてあるので開化堂の工場と思っていたが、調べると元は京都市電内濱詰所で永い間空き家だったのが、数年前カフェに变身した。このカフェは予約が出来ず、店内で待てなくて外で客が並ぶのをよく視かける。

テレビでご覧になった方もあるかもしれないがNHKの番組「世界は欲しいものにあふれてる」の中で、故三浦春馬が開化堂の手造り茶筒に「百年経っても美しさ、使い勝手は変わらない」と語った。年を経ても美しさを醸し出す茶筒を愛でていた。

カフェは女性のお客が多く、若くしてなくなった故人が好んでいたチーズケーキを食べながら在りし日を偲んでいる。

このカフェの2階に上がる踊り場になんと配電盤がある。これには子供の頃、裸電球が急に切れて真っ暗のなか、蠟燭の灯りでヒューズ交換をした父の姿が浮かび、カフェに懐かしい風景が走馬灯ごとくダブルで映る。

